

私が考える、「私達が、(必ずしも)考えてこなかったこと」と出会うかもしれない問い

1. 研修評価

(出会うかもしれない問い)

- ・私達は、「研修目標」を、どこまで緻密に設定すべきだろうか。
- ・「研修評価」を行うとき、「研修目標」だけでなく、「研修目的」の達成状況についても評価するのだろうか。
- ・そもそも、教職員に求められる力量とは、どのようなものだろうか。

2. 教科教育についての研修

(出会うかもしれない問い)

- ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」とは、どのようなものだろうか。
- ・生徒の「見方・考え方」を豊かにしようとする授業を行う上で、教師に必要な力量はどのようなもので、その力量を深める研修は、どのようにデザインすればいいだろうか。
- ・教師自身の「見方・考え方」を豊かにしようとする研修も、必要だろうか。
- ・「総合的な探究の時間」における「探究」と、「教科教育」の時間における「探究」は、同じだろうか。違うだろうか。それぞれで、学びのデザインは変わるだろうか。
- ・「対話」と「内省」を軸に、「気づきが深まる場」をつくる研修の在り方は、教科の指導力を深める上でも、効果的だろうか。
- ・その際、深めようとする「気づき」は、どういった「気づき」だろうか。自身の教育実践の特徴についての「気づき」、考えの枠組みについての「気づき」、自己の「在り方」についての「気づき」、或いは、これらとは異なる「気づき」だろうか。

3. 校内研修や OJT の在り方

(出会うかもしれない問い)

- ・校外でまとまった時間を取り、学校外の者と交流しながら行う「校外研修」と、教育課程を縫ってやりくりした時間で、学校の同僚とともに行う「校内研修」とで、研修のデザインは、同じだろうか。
- ・そもそも、私達は、どのような営みのことを「校内研修」と呼んでいるのだろうか。授業研究だけだろうか。
- ・「OJT」とは、どのようなものだろうか。「NITS からの提案」では、「計画的ではない先輩教員からの助言・指導」と定義しているが、この定義は、必要十分だろうか。
- ・学校で「OJT」が機能しなくなっていると聞くことがあるが、それはどうしてだろうか。どうすればいいだろうか。
- ・「校外研修」、「校内研修」、「OJT」は、どういう関係に立つとよいのだろうか。

4. 教員養成、教員採用、教員資格認定試験

(出会うかもしれない問い)

- ・私達がつくろうとしている学びの発想は、「未来の教師」を育成する教員養成課程での学びにも、通じるところがあるだろうか。
- ・仮にあると考える場合、私達は、「教員養成」を担っている大学教員等と、どのように関わることが考えられるだろうか。
- ・「教員養成」を担っている大学教員等と、私達で、教師に持ってほしい、深めてほしいと思う力量は、どのように重なり合い、どのように違っているだろうか。
- ・「教員採用」を担っている教育委員会と、私達で、教師に持ってほしい、深めてほしいと思う力量は、どのように重なり合い、どのように違っているだろうか。
- ・現行の教員資格認定試験が前提にしている、教師に持ってほしい、深めてほしいと思う力量は、私達がこの3年間育ててきた力量のイメージと、どのように重なり合い、どのように違っているだろうか。そのことを考えたとき、私達は、教員資格認定試験の在り方をどのように捉え、提案し、変えていけばいいだろうか。

5. 職員の学び

(出会うかもしれない問い)

- ・教師と事務職員の力量や、それぞれが力量を深めていく過程は、どのように重なり、どのように異なっているだろうか。
- ・それに応じて、どのような「職員の学び」を用意し、デザインすればいいだろうか。
- ・実務能力は、「OJT」で育むイメージが強いように思うが、それは本当にそうなのだろうか。
- ・NITSの中で、「OJT」はどれくらい機能しているだろうか。実務能力の向上に資する環境とはどういうもので、私達は、どうすれば、よりよい環境をつくっていけるだろうか。

6. よりよい社会の在り方

(出会うかもしれない問い)

- ・私達の研修、とりわけ探究型の研修における参加者の学びの姿を思い起こしたとき、私達がつくろうとしている学びは、何らか、よりよい社会の在り方につながっているだろうか。それとも、特には、よりよい社会の在り方につながるようなものではなく、各参加者の力量を深めることへの貢献に留まるだろうか。
- ・私達は、よりよい社会の在り方を強く意識し、学びをつくるべきだろうか。そこで目指される、社会の在り方とは、どのようなものだろうか。